

氏 名	矢崎 友隆
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	乙第335号
学位授与年月日	令和4年12月7日
審 査 委 員	主査 教授 田島 義証
	副査 教授 和田 孝一郎
	副査 准教授 矢野 彰三

論文審査の結果の要旨

慢性肝疾患の診療において、予後や治療方針決定のために肝線維化の評価は重要である。エラストグラフィは非侵襲的に組織弾性を測定でき、圧迫を加えたときの組織のひずみを評価する Real-time Tissue Elastography (RTE) と、組織中を伝播する剪断弾性波の伝播速度を評価する Shear Wave Elastography (SWE) の2つに大別される。今回申請者は肝臓の同一領域で RTE と SWE を測定したうえで採取した肝臓の病理組織を解析することにより、エラストグラフィの結果に影響を及ぼす病理組織所見やその他のパラメーターとの比較検討を行った。本研究では 2017 年 4 月から 2020 年 3 月までに、同日中にエラストグラフィ測定と肝生検を行った 96 症例を対象とした。全症例の検討では、SWE と炎症、線維化に相関を認め、RTE と線維化、脂肪化に相関を認めた。次に、症例を Non-alcoholic fatty liver disease (NAFLD) 群 (33 例) と non-NAFLD 群 (63 例) に分けて検討を行ったところ、NAFLD 群では SWE と線維化とに相関を認めたが、RTE と線維化には認めず、脂肪化とに相関を認めた。一方の non-NAFLD 群では SWE、RTE 共に線維化と相関を認めた。NAFLD 群で RTE が線維化との相関を認めず、脂肪化との相関を認めた原因として、肝細胞に脂肪滴が充満し、ひずみ難くなったことが RTE の測定結果に影響したのではないかと考えられた。これらの結果から申請者は、NAFLD 症例においては RTE よりも SWE での肝線維化の評価が有用であり、様々な指標と組み合わせることにより非侵襲的な肝線維化の診断が可能であることを提唱した。以上より、本研究の成果は臨床応用が大いに期待され、学位授与に値すると判断した。